

「 音 楽 I 」 シラバス

学科	商業科	学年	1年	類型		組	5組	単位数	2
使用教科書	音楽 I Tutti + (トゥッティ プラス) (教育出版)								
副教材等									

1 学習の到達目標

- (1) 音楽の幅広い活動を通して、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び多様性を理解するとともに、創意工夫した表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴く力を身に付ける。
- (3) 主体的・協働的にいろいろな活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付ける。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期の学習内容のまとめりに、下記の評価項目により、観点別評価と100点法の評価をする。学年末において観点別評価を5段階の評定に統括する。

知識・技能	曲想と音楽の構造や文的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めているか。 歌唱・器楽・創作活動において創意工夫した音楽表現をするために必要な技能を身に付けているか。	(3) (4) (5)
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く力が身に付いているか。	(3) (4) (5)
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組む態度が身に付いているか。	(1) (2) (4) (5)
評価方法	主な評価項目	
授業観察	(1) 学習の状況 (2) グループ活動への参加状況	
実技試験 (作品)	(3) 歌唱・器楽・創作発表・プレゼンテーション (生徒の相互評価を含む)	
鑑賞レポート	(4) 鑑賞レポート提出	
自己評価シート	(5) 授業の取り組み状況及び自己分析	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい	評価項目
一 学 期	「歌声を合わせて」 校歌、Sing 野ばら、オー・ソレ・ミオ おおシャンゼリゼ	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことの楽しさを感じ、視唱力の向上を図る。 ・原語に親しみ、特徴を理解する。 	(3) (5)
	「ギターの基礎」 愛のロマンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ギターとその奏法について理解を深める。 ・調和の取れたアンサンブルに親しむ。 	(2) (3) (5)
	「合唱の楽しみ1」 信じる	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱の楽しさを知り、協調的に活動する。 ・詩と音楽との関わりを理解する。 	(2) (3) (5)
二 学 期	「西洋音楽史1」 中世～古典派～ロマン派	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代における音楽様式の特徴を理解する。 ・楽曲の構成や要素を理解し、そのよさを味わう。 	(4)
	「ボディーパーカッション」 YOU CAN DO IT	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽表現に親しむ ・効果的な表現を工夫する。 	(2) (3) (5)
	「リコーダー・ギターアンサンブル」と創作 カノン	<ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の基本的な奏法を理解する。 ・各パートの役割を理解し、表現を工夫する。 ・音楽を形づくっている要素を理解し自己のイメージに合った音楽をつくる。 	(2) (3) (5)
	「西洋音楽史2」 ロマン派～近・現代	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代における音楽様式の特徴を理解する。 ・楽曲の構成や要素を理解し、そのよさを味わう。 	(4)
三 学 期	「合唱の楽しみ2」 Amazing Grace、春に	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱の楽しさを知り、協調的に活動する。 ・歌詞及び曲想を把握し、表現を工夫する。 	(2) (3) (5)
	「課題研究」	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的また協力的に活動する。 ・自己のイメージを持ち、創造的な表現を工夫する。 ・プレゼンテーションにおいて発表内容及び方法を工夫する。 	(2) (3) (5)
	「世界の民族音楽・日本の伝統音楽」	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な音楽の在り方を理解する。 ・日本の響き(声、楽器)に関心を持ち、理解を深める。 	(4)

備考 評価項目の(1)については、全ての単元において評価項目として用いる。